

ボール、ビー玉の色や形、堅さや匂いの異なるものが入っている)と十分出会うようにと教示される。目を開けてから、どのような出会い方をしたか分かち合い、五感がもたらす異なる情報についての説明を行う。

- ②「ブラインド・ワーク」→二人組となり、一人が目隠しをして、パートナーが案内をしながら目隠しをした人に対してほしいもの、伝えたいことを言葉を使わないで伝えるようにする。役割を交替してから口頭で分かち合う。

10 タイトル：かかわりの体験（2）

目的：共感とは何かということを体験的に学ぶ

内容：「共感のワーク」→まずある短い詩の朗読を聞き、次に、その詩が書かれた背景が理解できる一連の詩の中で同じ詩の朗読を聞いたときとの感じ方の違いを体験することから、共感について考察する。また、グループに別れて、つぎつぎに絵本の読み聞かせをし合い、共感的に反応するとう体験をする。

小講義：共感とは何か

11 タイトル：かかわりの体験（3）

目的：自分の非言語的なかかわりのあり方を体験する

内容：「共同絵画」→言葉を使わず、グループで協力して一枚の絵を描く。インストラクターは何を描くのか、どう描くのかなどについては一切教示せず、演習中は、各グループの雰囲気やメンバーの動き、無言で行うというルールが守られているかどうかなどを十分に観察する。終了後に無言状態のまま

で個人のふりかえり用紙を記入したあとグループで分かち合う。

小講義：非言語的コミュニケーションについて

12 タイトル：かかわりのスキル（1）

目的：言語的なコミュニケーションとは何か、その使い方などをゲーム的に体験してもらう。

内容：①「流れ星」→インストラクターが教示する通りに簡単な絵を描いてもらい、一方通行のコミュニケーションによって起こることを体験する。

②「伝言ゲーム」：簡単な文章を伝言していくうちに、各自の持つ先入観やステレオタイプが影響することを体験する。この2つはウォーミングアップとして行う。

③「一方通行、双方通行のコミュニケーション」→ある図形の伝達をするのに、伝達者が一方的に伝えるだけで質問や確認のできない方法と、伝達する人とされる人とがやり取りできる双方向のコミュニケーションの両方を体験し、その特徴と影響に気づく。

小講義：コミュニケーションのプロセスと留意点

13 タイトル：かかわりのスキル（2）

目的：対人関係における、自分のたずね、答え、観察する技術を高める。

内容：「たずね・答え・観察する」→3人組となり、たずね役、答え役、観察者役を入れ替わりながら、テーマにそった話し合いを行い、それぞれの役割として体験したことをフィードバックしあう。

小講義：聞き手・話してとしての留意点